

**エグゼクティブフォーラム in 大阪\_パネルディスカッションサマリ**

**日時:** 2012/02/08(水)15:15~17:00

**会場:** 大阪丸紅ビル B1F 研修室

**パネルテーマ:** 経営層と情報システム部門の管理職とのギャップはなにか

~経営現場、情報システム現場双方の本音トークから、  
これからの情報システムの「やるべきこと」を徹底討論~

**モデレーター:** 柳原 秀基 氏 /「システム管理者の眠れない夜」(IDG/技術評論社)著者

**パネラー:** 小玉 稔 氏 / エグゼクティブフォーラム座長

PFU ライフエージェンシー株式会社 IT サービス事業部

鈴木 康宏 氏 / 株式会社日本公文教育研究会 IT戦略室 室長

岡 倫宏 氏 /株式会社日本経営 情報システム部 次長

木内 里美 氏 /大成ロテック株式会社 常勤監査役

当研究会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

**■全体の構成**

- 自己紹介
- 資料による全体の流れの説明
- ・テーマの再確認(経営層、情報システム部門の管理職の定義等)
- 講演における意見
- 事前アンケートにおける意見交換

**■講演における意見(質疑応答)**

- ・木内氏:監査役をうまく使うべき。(事業監査、会社は、監査役を首にできない)
- 岡氏:経営方針を包含して1枚の絵を作ったのか?
- ※鈴木氏ご講演時に、「システム構築において、改善すべき点(理想形)を一枚の図にして共有した。」とコメントあり※
- 鈴木氏:経営方針が、ITの考える絵から出てきた。
- ただ、経営層は、ITを難しいと考えており、考えている事のレベル感が違うと思うときがある。
- ・小玉氏:サーバとかHDとかの図が、経営層にわかるのか?
- 鈴木氏:それだけでは、経営層は理解できていない。ROIでの話をするとう理解されやすい
- 木内氏:ITの理想の姿は、経営の為である。
- 1枚の絵は、経営の理想象のスケッチである。これをシステムの実現性におとしていった物である。このスケッチを通常作らない(作れない)現場から、個別に意見を吸い上げてシステムを作っていくと全体がブレてしまう。いらぬ物ができてしまう。
- 可視化と発信が必要。発信していくのが重要。
- 岡氏:弊社は経営方針に基づいた絵を作成していた
- (柳原氏:会場に対して、一枚の絵を描いた事があるかどうか質問)
- (45名中15名が絵を描いた事があるという回答であった。)
- 鈴木氏:箇条書きでは、説得をしにくいので絵は必要だと思う。

## ■可視化の方法についての Discussion

・(柳原氏:会場に対して可視化をしているか否かを質問)

→(具体的に可視化をされている方アリ)

→複数年度の経営方針が出てくる、これに対し、絵を作成し、ROIを考慮した資料を作成している。

・木内氏:可視化は、最初にやるべきである

→議事録を作成し共有していく。

→やるべき事を積み重ねている。

→鈴木氏:組織の壁をITがつかないであげる。個々の部門では、最終形(理想形)が見えない。

・小玉氏:テストパイロットの様な人が必要

→木内氏:いろんな部署を横断して色々な声を吸い上げ、全体に渡す。これがCIOである

・木内氏:経営者を育て、この中から良いCIOが出てくるので、この人が技術を勉強する。防衛大臣と同じように、実際にその技術を使いながら勉強する。CEOはこれを意識すべきである。

## ■事前アンケートから読み取れる事は?

<ギャップとは>

※経営層とのギャップで、予算策定時が多い※

1.経営層のやりたい事と、現場のやるべきとと思っている事は異なる

2.実施すべき事にかかる予算の価格感がギャップ

→部門から、予算を取り上げ、本当に必要な物が提示されたら、やる。しかし審査は厳しくすると、必要な物が上がってこなくなった。

→木内氏:つまり無駄な物が多かった事になる。

→木内氏:5年間の予算感を策定するのが重要。

<安定した稼働>

※経営サイドが、情報システム部門の成果に対して期待するものは?という質問に対し、

-木内氏:ITがインフラ化したので、この安定稼働を望むのは、経営者からしたら当然である。

→岡氏:安定稼働だけでは無いであろう。

→木内氏:これは上記の意見と異なる物では無い。

→(会場に対して安定稼働についての優先度を質問)

→(A社)安定稼働は、義務である

→(B社)オペレーション、開発は、別会社に行っている。

→親会社に、考える人は残している。いわゆる情報部門である。ここには、さまざまな部門から来ているので、経営層に近くなっている。これが、ここ数年の傾向である。

→経営層に近い、IT部門は少ない、考えられないから、安定稼働をお題にさせられている。

## ■情報システムに不足している物は?

・人材不足が多い(アンケート結果)

→柳原氏:情報共有の為に仕組みをつくらなくてはいけないのでは?

## ■人材育成

- ・鈴木氏：社内 SNS が、以外とうまくいかない。やはり、勉強会を企画するのが良いであろう。
- ・木内氏：ヒアリング力、ドキュメント作成、プレゼンテーション力がシステム部門に必要、同時に現場を理解する、行く、話すのが必要である。